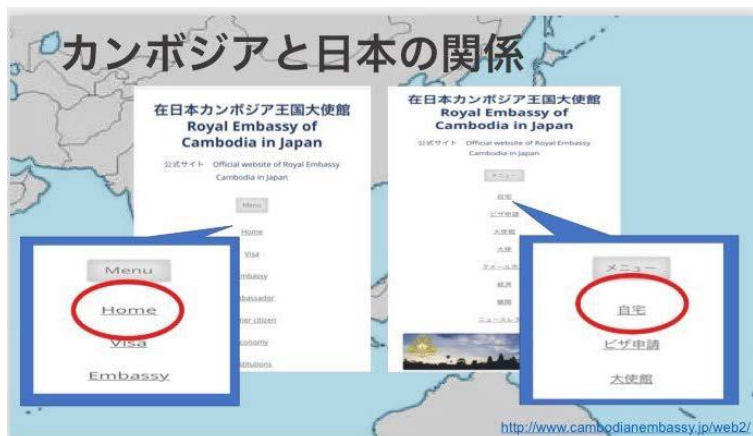


# カンボジアの隠れた魅力 発掘調査の旅

私たちははじめに、日本から10万円以内の範囲内でほかの参加者と被らない国を探した。その結果、カンボジアという国が候補に挙がった。この国を調べていくと、近年経済が急激に発展(2017年の実質GDPの成長率は7%、過去10年の平均成長率は7%超え)していることや2016年に日本とカンボジアの首都との間で初めての直行便ができていたことが分かった(成田-プノンペン間 全日空)。さらに日本の政府は地雷撤去や遺跡の修復などの分野で多大な協力をしていて、カンボジアにとって最大の開発援助国となっている。このようにカンボジアのことを調べていくうちに、日本とカンボジアの間には大きなつながりがあり、これからさらに結びつきが増えていくと考えられるにもかかわらず、私たち日本の若者がカンボジアという国をよく知らないということに気づかされた。周りの友人に向けたアンケート調査では、ほぼ全員がカンボジアに対して「暑い」「貧しい」「地雷が残っている」というイメージを抱いていると回答した。また世界遺産に登録されているアンコールワットの印象だけが強いということも分かった。このことから私たちがカンボジアの情報に触れる機会はとても少なく、関心を持ちづらいということを表していると考えた。

そこで札幌駅の大型書店に向かいカンボジアに関する本を探したが、手に取りやすい旅行ガイドブックでさえ「カンボジア」という国を扱っているものは見つからなかった。あるのはアンコールワット特集のものばかりでベトナムやタイなどのほかの国とひとまとめにされていた。また、カンボジア大使館のホームページを見てみると、一部しか日本語に訳されていない上に誤った翻訳も見つかった。そこで私たちは日本のこれからを担う私たち世代がもっとカンボジアに興味を持てるように情報発信をしたいと考えた。アンコールワット遺跡群があるシェムリアップは世界中から観光客が訪れていて有名だったので、カンボジアの魅力発掘の主な目的地は首都のプノンペンとした。あまり知られていない魅力を発見するために、ガイドブックやネットに載っているところにそのまま行くのではなく、現地の人にインタビューしながら観光することを目標にした。さらに私たち世代に情報が届きやすいように発信の主な手段を SNS として、Twitter と Instagram のアカウントを作った。特に近年、観光の重要な要素となりつつある「写真映え」や「おいしいもの」も探してプノンペンの観光地としての魅力もアピールしたいと考えた。





## 1日目 3月6日

16:00 キャセイパシフィック航空で新千歳空港出発

20:55 香港国際空港到着



プノンペンまでは香港の LCC キャセイパシフィック航空を利用し、空港泊をした。乗り換えの案内は日本語の表記がなく英語と中国語のみだったが漢字なので予測しやすく、案内係の人も英語が通じるので、彼らに尋ねたりしながら無事に乗り換えができた。飲み水やインターネット、充電スポット、休憩所などが用意されていて、夜中でも人が多く想像していたよりも気楽に空港泊ができた。

## 2日目 3月7日

09:05 香港出発

10:45 プノンペン到着

空港からタクシーでゲストハウスに向かった。空港から10kmほどの“Nawin Guesthouse”に3泊した。道路を挟んで正面に国立博物館があり、リバーサイドや王宮にも徒歩で行けるほどの近さだった。4階のバルコニーのあるツインルームに大人二人三泊で¥6638だった(一人一泊あたり\$10)。朝食、無料

Wi-Fi、部屋にバスルームもついていた。欧米をはじめとした多国籍の観光客が利用していて、少し朝寝坊をすると朝食がバナナしか残っていなかった日もあったが、とても居心地がよかった。

お昼過ぎに徒歩で30分ほどかけてセントラルマーケットに行った。



食料品をはじめ、衣料品、アクセサリが売られていてとてもにぎわっていた。地元の人が商品を買っているのには驚いたが、彼らが食べているものを観察するのも楽しかった。その後セントラルマーケットから徒歩5分ほどのローカル向けのショッピングモール・Sorya Shopping Center で昼食を食べ、街を徒歩で散策しながらリバーサイドのアイス屋さん・Blue Pumpkin で「インスタ映え」するアイスクリームを食べた。



Instagram では、少し大変だったが日本語だけではなく英語でも説明やタグをつけるようにした。日本人だけでなく海外の旅行に興味がある人からも「いいね！」がきて旅行者同士の情報交換にもつながった。その後、ゲストハウスの向かいにある国立博物館前の公園を散策し、絹織物産業の様子や伝統音楽などを見学した。この日は初日で元気があったこと、自分たちの足で散策したかったため、街中のいたるところにいて「Hello!Tuk-Tuk??」と声をかけてくるトゥクトゥクドライバーたちにことごとく



Liked by icecream\_inspector, yashiki\_ and 21 others

siu\_cambodia ちゃんと『インスタ映え』も探してますよ〜！🍦  
トンレサップ川沿いにあるアイス屋さん。二階のソファ席で食べることができます。ココナッツフレーバーは日本ではなかなか食べられないのでオススメです🌴🌴おしゃれ！！🌟 2.9\$

Blue Pumpkin Cambodia  
Ice cream shop along Tonle Sap River.You can eat at the sofa seat on the second floor.A unique tropical

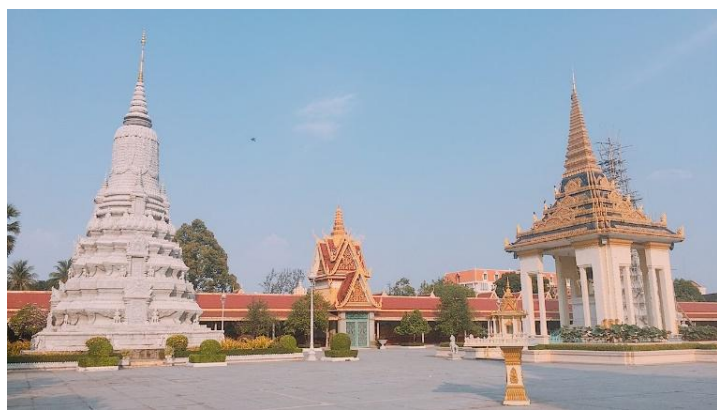
「No thank you!」と断った。大きい道路以外では交通信号機がほとんどない上にバイクが多くて最初は怖かったが、常に歩行者が優先であり不思議と車やバイク同士の事故も見かけないので1日目で慣れた。

### 3日目 3月8日

朝、王宮に向けて歩いていたらあるトゥクトゥクドライバーに声をかけられシティツアーの勧誘をされたので、ガイドブックに載っていないようなあまり知られていないところに行きたいと伝えた。レゲエを大音量で流しながら連れて行ってくれたのがトンレサップ川とメコン川を渡ったさきにある Koh Dach 島だった。別名「シルクアイランド」として有名で現地の人々がシルク製品を織っているところや村の様子を見ることができた。行ってから気づいたが、シルクアイランドは「地球の歩き方」に掲載されている。



その後 Wat Phnom と王宮に行った。王宮は観光客だけでなく現地の家族連れが多くみられた。



出口付近で楽器演奏があつたがよく見ると電話しながら演奏していて面白かった。

王宮には膝や肩が出るような露出の多い服装では入れないことになっている。入り口に英語でも表記された大きな看板があり、ガイドブックやインターネットにも注意事項として記載されているが、ハーフパンツやタンクトップでくる観光客を多く見かけた。その場合、入り口にて\$30ほどで服の上から巻くタイプのズボンを購入することになる。「ちょっとくらいいいじゃないか。入れてくれ」「わかったよ。払うよ」というような欧米人の会話を耳にしたが、単にお金がかかるから気を付け



るのではなく、訪れる行先での文化や宗教の背景を事前に最低限調べて敬意をもって観光すべきだと思った。お寺の内部は写真撮影が禁止と分かりやすくイラスト付きで注意書きがあっても警備員の目を盗んで「自撮り」する観光客がいたのは悲しかった。`観光の情報を発信する際、「美しいもの・珍しいものを見ること」や「おいしいものを食べること」はわかりやすく伝えることが可能だし、情報もたくさんある。しかし自分の国にはないその国独自史・文化を学ぶこと」に関して

は興味がない人もいるのが現実だと思う。

この日はとても暑かったので冷たい麺が食べたかった。ゲストハウスのフロントやお土産屋さんの店員に聞いて冷麺レストランがあると聞いたので向かってみることにした。平壤冷麺という北朝鮮経営のお店だった。ネットで調べたところ日本人に対しては態度が悪いというレビューもあったが、そんなことはなかったというレビューもあったので実際に行ってみた。最初に「国籍はどこですか？」と聞かれ日本人だと答えたら私たちのテーブルにあったお茶のピッチャーをほかのテーブルに持っていかれ、料理も40分待った。私たちより後に隣のテーブルに来た中国人客のほうで料理が来るのが早かったり、会計の時にもあきらかに失礼な態度をとられた。とても広いレストランだったがカンボジア人は一人もおらず、予約の中国人団体客が大半を占めていたので中国人や韓国人観光客をターゲットにしているということはよくわかったが、あからさまな国籍差別を初めて体験して驚いた。カンボジア料理は熱いものが多いので、日本人でも気軽に楽しめる冷たい麺料理のお店があったらいいなと思った。このレストランの往復で利用したトゥクトゥクのドライバーが帰り道にライトアップされた Independence Monument をわざわざ通ってくれたのが分かったので仲良くなり、この後 2 日間お世話になることになった。朝の反省を生かしてガイドブックを見せながら「この本に載っていないようなところに行きたい」と伝えたら、「ネットで探してみるし、明日はもっと英語が話せる友人にも合わせるよ。」と約束してくれた。

## 4日目 3月9日

10:00に前日のドライバー Veasna と約束をして英語が上手なカンボジア人に私たちの目的を伝えた。

そして連れて行ってくれたのがメコン川とトンレサップ川が合流する地点にある離島のローカル向けの遊園地だった。まだ営業していなかったがカンボジアにこんなところがあると思っていなかったのが驚きだった。二つの川の色が全然違うのも面白かった。さらに Town Hall、チャイナタウン、ローカルのデートスポットになっている公園にも連れて行ってくれた。中国や韓国の企業が高層ビルをたくさん建設して



働いているのはカンボジア人たちだったが、「中国や韓国のマンションは建てても値段が高すぎてカンボジア国民は住めないから、中国や韓国に対する印象は悪い」と Veasna が教えてくれた。お昼ごろに向かったローカルマーケットでは



カンボジア人たちが実際に食べているものや生活用品などが売られていてとてもエネルギーに満ちていた。トゥクトゥクで横を通るとたくさんのカンボジア人たちと目が合い、そして必ず微笑んでくれた。親日国であることももちろん実感したが、それよりもカンボジアの人々がコミュニケーションにおいて

「目を見ること」を大事にしているのだろうなと感じた。

この後いくつかのお寺を見て回って子供と仲良くなり、トンレサップ川の反対側の岸からのプノンペンの眺めも見せてもらった。Veasna はカンボジア流のパイナップルの食べ方を教えてくれた。果物屋台では頼めば辛くてしょっぱい「チリ」をもらえる。カンボジア人たちはこれで暑さに打ち勝つらしい。



一度ゲストハウスに戻って近辺を散策していると主にせつけんを扱ったお土産屋さんで働いている日本人女性に出会った。

どうしてカンボジアに移住しようと思ったのか尋ねると、「あったかいところに行きたくて、10年前は就労ビザがとりやすかったからカンボジアに決めた。」と教えてくれた。調べてみると2017年9月には6か月と1年の就労ビザを取得するには労働許可証カードの提出が義務付けられるなどだんだんと規制が厳しくなっているようだ。彼女には他にもカンボジアでの食事やお気に入りの場所などもインタビューした。この国で働いている日本人に会えるとは思っていなかったので、いい出会いだったと思う。

プノンペンには野良猫が多くとても人懐っこいので猫好きの人にはぜひ町中にあるお寺に行ってみることをお勧めしたい。夕方にはトンレサップ川沿いにあるプノンペン観光インフォメーションセンターにいき「あまり観光客に知られていない、おすすめの場所はありますか？」とインタビューしたが、担当の方が先月プノンペンに配属になったばかりで有名なところ以外はまだまだよく現地のことを知らないとのことだったので、代わりに彼のお気に入りのカンボジア料理レストランを教えてもらった。



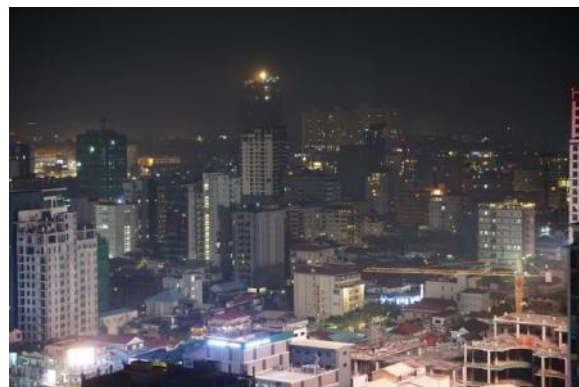
その後ナイトマーケットに行ってお土産や服を買った。まとめ買いをするとおまけをしてくれる。どこも同じようなものを売っているが、柄やサイズ、生地が微妙に違い提示される値段もお店によって全然違うので、よく見て回ってから買うのがコツである。その後せっけん屋さんの日本人お姉さんおすすめのプノンペンタワーに向かった。日本では絶対に体験できないフェンスの心もとのなさと360度の夜景を見ることができた。カンボジアでこんなきれいな夜景を見られるなんて知らなかったのぜひたくさんの人に知ってもらいたい。



そして帰り道、朝営業していなかった遊園地をもう一度通ってくれた。難しい要求を一生懸命理解しようとしてくれた上



にホスピタリティあふれる案内をしてくれた Veasna には本当に感謝している。



## 5日目 3月10日

4日目の観光案内所で教えてもらったカンボジア伝統料理の Mallis レストランに行った。入ってみると予想外に高級レストランだったので学生にはおすすめできないが料理はとてもおいしかった。残りの時間



を使ってローカルマーケットで現地の人々に人に知られていないけどおすすめしたい場所を聞いて回った。しかし英語が通じる人が少なく私たちの目的を正確に伝えることはできなかった。観光地を離れると文字を読める人や英語がわかる人がとても少なくなることを実感した。

We came from Japan.  
to discover new wonderful parts  
of Cambodia.  
We want to tell the good points  
of Cambodia to Japan!

Theatar  
Vengchay heng  
+ Samith  
mondokry  
ly hour  
samith



それでも一生懸命話を聞いてくれ、「僕より英語わかる人連れてくるね」とどんどん人が増えて最終的に20人近くが私たちの話をきいてくれた。時間が限られていたので、この日に地元の人おすすめの場所に行くことはできなかったが、カンボジアの人々の仲の良さやあたたかさを感じた。「プノンペンのお気に入りの場所」について文字が書ける人にはノートに書いてもらった。ほかにも好きな食べ物や子育てについての話を一緒にした。

また初日から日本製の車がとても多いことが気になっていたので、この日のトゥクトゥクの移動時間を使い、二人で選挙の手元読みの要領で車のメーカーとその数を調べた。TOYOTA が圧倒的に多く全体の6割を占めた。次にHonda、レクサスが僅差だった。レクサスを TOYOTA にカウントすると TOYOTA は私たちがこの日目にした車の7割を超えた。ほかには三菱、マツダ、ニッサン、スズキ、イズミも見かけた。Veasna によると日本の車は品質が良く世界的にも有名だが、カンボジアでは特に親日なこともあって日本製の車が人気だそうだ。実際にカンボジアで見つけた日本以外の国の車メーカーは BMW、フォルクスワーゲンなど合わせてわずか1.5パーセントだった。一方でバイクはHondaが一番多かった。この日の23:30 プノンペン発の夜行バスでシェムリアップに向かった。6時間ほどで大人一人たったの\$15だった。席はフラットになるタイプで飲料水ももらえる。昼間のびんでは軽食や途中休憩もあるようだ。インターネットで予約をしていたので、前日に念のため確認に事務所に向かったが、とてもフレンドリーかつ親切に当日の集合場所などを教えてくれた。着くのが早朝だったので、活動できるまでバスの到着場所で待つことを覚悟していたが、すでにトゥクトゥクが十数台待機していて、シェムリアップについてすぐにホテルに向かうことができた。

左下の写真は最後にリバーサイドを散策していた時に見つけた、排

水施設を整備し雨水を効率的に排水することで川の氾濫や洪水を防ぐ計画で日本が協力したことを示した記念碑の写真だ。





## 6日目 3月11日

シエムリアップで二日間お世話になることになったトゥクトゥク  
ドライバーおすすめの屋台朝ごはん(豚肉と野菜のスープ麺、  
1.5)を食べてから戦争博物館、キリングフィールドを見学しに  
行った。ポルポト政権時代の武器やベトナムとの戦争時の地雷  
を見ることができた。プノンペンには猫が多かったがシエムリアッ  
プは犬が多かった。その後トンレサップ湖のサンセットクルーズ  
に向かった。これは観光客がとても多く来ていて日本人観光客  
にも結構会った。



湖の上で生活している村や魚を捕りに来ている様子を近くで見ることができた。途中で違う船から乗り  
移ってきたフレンドリーなカンボジア人がクメール語の「リーハイ(さようなら)」「スレイスアー プロッスアー  
(かわいい)」「プロクタイ(オカマ)」を教えてくれた。



帰り道に私たちの船のエンジンが壊れたのでたくさんのほかの船に追いこされ、ほかの旅行者や現地の人たちと手を振りあえて逆に楽しむことができた。一人\$25と値段は少し高めだがお金に余裕があればぜひ体験してもらいたいほどのきれいな景色と旅行者同士の一期一会のコミュニケーションを楽しめるアトラクションだった。

この後カンボジアの伝統的なアプサラダンスのディナーショーを見に行った。大きなホールにビュッフェがあり、「sushi」や「tempura」も見つけた。クルーズやディナーショーは事前に町の観光案内所でチケットを買っておくと並ばずにスムーズに入ることができるとトゥクトゥクドライバーが教えてくれた。



この後ホテルまで歩き、ナイトマーケットやパブストリートの雰囲気を楽しんだ。プノンペンのナイトマーケットで\$3といわれていたTシャツがシェムリアップのナイトマーケットでは\$8だった。アンコールワット遺跡群のあるシェムリアップのほうが観光地として発展しているので、それによる物価の違いに驚いた。またスーパーマーケットのお土産コーナーで\$2の定価がついていたキャンドルが、マーケットでは\$8と言われ、じゃあいいやというので「わかった！\$3！いや\$2！」と急に値段が下がるので旅行者の見た目によって最初に提示する値段を変えているのだろうなと感じた。ライブがそこら中で開かれていてかなり夜遅くまでにぎやかだった。ホテルやストリートで日本人と会ったときはTwitterとInstagramのアカウントを宣伝した。



## 7日目 3月12日

最終日であるこの日は朝からアンコールワットに向かった。朝寝坊したが朝焼けの景色にぎりぎり間に合った。



アンコールワットのおへそ→  
朝から観光客がたくさんいて  
日本語でのガイドの声も聞こ  
えた。アンコール遺跡群の  
一つであり「天空の城ラピュタ」  
のモデルになったといわれてい



るベン・メリアに行きたかったが片道2時間かかると  
いわれたので断念し、雰囲気似ているところがない  
かドライバーに尋ねたら「多くの観光客は知らずに通り  
すぎるけど森の中に小さくて似ているところがある」と  
タ・ネウという遺跡に連れて行ってもらった。



アンコールワットでは現地の人とかかわる機会が  
少なく、「有名な観光地」だったのでプノンペンに

4日間滞在した後だからか物足りなく感じた。

観光や世界遺産に興味があつてこの大学に入学したが、1年生で海外旅行、しかもカンボジアに行く機会を手に入れることができるとは全く思っていなかった。行先に決めて詳しく調べはじめる前と後でカンボジアに対するイメージはだいぶ変わったが、実際に来てみると想像していなかったことがいっぱい百聞は一見にしかずとはこのことだなと思った。ここには載せきれない写真や食べ物のこと、買い物のコツ、出会った人々のこと、カンボジアで見つけた日本語シリーズ、日本の若者世代に知ってほしいことはTwitterやInstagramでこれからも発信していく。カンボジアに行くことが決まってから、偏ったイメージや情報で私たちのことを心配していた友人、知り合いの方々もSNSの投稿や写真をみて「私もカンボジアにいきたくなつた!」と言ってくれる人が多数いてこの旅行は成功だったなと感じている。大人数で行くようなすべて設計されていて不自由のないパッケージツアーは今後少なくなっていくと考えているので、初めての海外旅行でガイドブックに頼らない旅行をできたことはとても活かしがいがあると思っている。言葉の壁もあつたが旅行中にドライバーやホテルのスタッフ、お店の店員などとストレスなく意思の疎通がとれて、自分の目的や要望を英語で相手に伝えられた時に味わつたうれしさも、海外旅行の楽しみの一つだと感じた。

観光ビジネス学科17131060 横山 由奈